

「前日」について考えてみませんか？

「あなたがドアを出て行くのを見るのが／最後だとわかっていたら／わたしはあなたを抱きしめて／キスをして／そしてまたもう一度呼び寄せて／抱きしめただろう」

（『最後だとわかっていたら』）

作・ノーマ コーネット・マレック、訳・佐川睦

私は、20年間、阪神・淡路大震災の被災者と語り部活動を続けてきました（野田村とも交流があります）。最近特に強く思うようになったことがあります。それは、被災について深く理解するためには、あの日の「後」だけでなく、「前」について知ることが大切だということです。「前」と「後」とのギャップこそが、被災ということだからです。中でも、あの日の「前日」（「前夜」）には、みなさまも特別な気持ちをお持ちだと思います。つらい感情も湧いてくるかもしれませんが、「前日」は「伝える」ための大切な鍵にもなりえます。今回は、みなさまとともに、あの日の「前日」について考えてみたいと思います。

プログラム

- 開会挨拶 渥美公秀 大阪大学大学院教授
- 18:00 「前日」について考えてみませんか？
講師：矢守 克也（京都大学防災研究所 教授）
- 20:00 終了

講師紹介：矢守 克也（やもり かつや）

京都大学防災研究所 教授。
専門は防災心理学。阪神・淡路大震災で実家が被災、熊本地震で義母が被災。
著書に『天地海人－防災・減災えっせい辞典』など。



参加無料

6月11日(日)

18:00~20:00

場所：大阪大学野田村サテライト

問い合わせ先
大阪大学野田村サテライト
住所：野田村大字野田 22-114-49
TEL：0194-75-4221
HP：http://www.respect.osaka-u.ac.jp/satellite-nodamura/

